

# 日本語文章力検定 受検要項

**趣旨**■日本語の文章力を検定する。日本語文章力の目安と目標を示して、その表現能力の向上を図るものとする。さらに日本語表現の正確さと美しさを追求し、文芸表現、理論表現、思想表現のより高いレベルをめざし、文章言語文化の発展と向上を期して、日本文化の基礎力の充実に資する。

**実施時期**■毎年4月末日と10月末日締切りをもって年に2回行なう。

第1回は平成23年4月30日（提出期間3カ月前より／2月1日～4月30日まで／当日消印有効）

第2回は平成23年10月31日（8月1日～10月31日まで）※第3回は平成24年4月30日を予定

**送付方法**■郵送・宅配便・メール便など受検作品送付による受検

**認定証**■検定合格者には日本語文章力検定協会の認定証を発行する。

**部門**■ ●成人一般部（文芸文・記録報告文・論文）

●学生部（高校生まで／高校生は一般部も受検可能／文芸文・記録報告文・読后感想文など）

## 受検方法■

### ●A 受検方式

①タイトル・内容 検定作品のタイトル・内容は自由

②字数 2000字以内 A4用紙（横長で使用）

③表記形式 縦40字×横30行で印字

手書き400字詰原稿用紙でも可。ただしあまりに読みにくいものは減点される。

タイトル・署名を冒頭に適当な配字で記すこと。タイトル、署名などの書き方も採点対象となる。

④受検用紙・写真 検定要項添付の受検申込用紙に住所・氏名・年齢・職業など必要事項をすべて書き込み、顔写真3cm×4cm（裏に氏名を記入）を、受検作品に同封して送る。作品・写真は必ずコピーを取っておくこと。コピーを取らない作品は送付不可。

⑤受検料 検定受検料を受検級・段にしたがって郵便為替（何も書き込まないこと）で同封する。

⑥封筒 封筒は角3（216×310<sup>mm</sup>）を使用し、封筒には必ず申込用紙の一部を切り取った紙片ABを、A方式かB方式か○をつけて貼ること。

⑦送付先 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢7-15-13

アジア文化社内 日本語文章力検定協会

第○回日本語文章力検定 受検係

### ●B 受検方式

①「文芸思潮」エッセイ賞に応募した作品を受検作品として併用する。

（枚数は「文芸思潮」エッセイ賞の募集要項に従う）

②「文芸思潮」銀華文学賞に応募した作品を受検作品として併用する。

（枚数は銀華文学賞の募集要項に従う）

③その場合、規定の受検用紙も提出し、写真も添付し、受検料分の郵便為替（何も書き込まないこと）を同封、またはあらためて送付する。

## 受検料■ ●一般部

6級～4級 3000円

3級～2級 4000円 高校卒レベル2級

1級 5000円 大学卒レベル1級

初段 6000円

2段 7000円

3段～4段 8000円

5段 10000円 プロ級5段

※初段以上は1次審査の他に、2次審査として他の作品も考慮し（提出物複数）、5段以上は、過去の出版物なども審査して総合的に審査する。1次審査が通過した者に、2次審査の通知を送る。他の作品、出版物は、2次審査時に送付。

## ●学生部

9級～4級	2000円	小学生レベル
3級～2級	3000円	中学生レベル
1級	4000円	高校生レベル
初段	5000円	※初段は2次審査を行なう。
2段	6000円	
3段～4段	7000円	※学生部の最高位は4段とし、以後一般部に試験の上編入する。

**合格発表**■受検締切りから約3カ月後に行ない、本人宛に合否を書面で通知する。

合格者には認定証を同時に送付する。また、インターネットに合格者氏名を発表するが、本人が希望しない場合は、発表しない。

## 検定審査員■

「群像」新人賞作家・「文學界」新人賞作家など、検定協会指定のプロ作家を審査員とする。

## 不正受検の禁止■

本人以外の力によって書いたもの（他者からの助言程度は可）、また他人の作品を代用または盗用するなど、不正行為によって受検してはならない。これを厳禁する。もし不正が発覚した場合は、認定は取り消されると同時に、以後受検資格を失い、罰金50万円を検定協会に支払うものとする。不正受検の疑いが生じた場合は、受検者本人に指定した会場に出席してもらい、検定官同席のもとに、試験形式で指定の文章を制限時間内で書いてもらうものとする。不正行為者はインターネットに発表する場合もある。

## 共催■文芸思潮

**採点方法**■200点満点とし、文芸文の場合は次の点に分けて採点する。

- ①題材
- ②テーマ
- ③構成（論文や報告文の場合はこれに論理の組立てと具体例が含まれる）
- ④文章・文体
- ⑤人物・キャラクター
- ⑥描写
- ⑦会話
- ⑧結末・盛り上がり
- ⑨読後感
- ⑩完成度
- ⑪漢字・仮名づかい・熟語などの誤り（一つの誤りごとに5点減点）・タイトル・署名の書き方

①～⑩は20点～30点満点の加点法。論文・報告文の場合は⑤～⑧は評価の対象にならず、他の評価方法（具体例や、論理の展開・組み立て、主張の明確さなど）による。

⑪は減点法による。

思考の成熟度、観察力、文章の美点、感性の密度や深さ、他にそれぞれの魅力、主張の普遍性および強さなどが加点され、一つの領域が劣っていても、他の魅力・能力がそれを上回ってれば、加点の結果、合格となる場合もある。またテーマに取り組む挑戦意欲・姿勢も、審査の対象になる。合格基準点は160点とする。